

私はワタシと旅にでる。



宮崎 駿 プロデュース ■ 高畑 勲 監督作品

# おもひでぽろぽろ

〈声の出演〉今井美樹・柳葉敏郎

製作／徳間康快・佐々木芳雄・磯邊律男 ■ 企画／山下辰巳・尾形英夫・斯波重治 ■ 原作／岡本 豊・刀根夕子 (徳間書店・青林堂刊) ■ 製作プロデューサー／原 徹 ■ プロデューサー／鈴木敏夫  
作画／近藤喜文・百瀬義行 ■ 美術／男鹿和雄 ■ 主題歌／都はるみ「愛は花、君はその種子」(日本コロムビア) ■ 音楽／星 勝 (徳間ジャパン) ■ 制作／スタジオジブリ  
特別協賛／カゴメ(株)・ブラザー工業(株) ■ 徳間書店・日本テレビ放送網・博報堂 提携作品 ■ 配給 東宝

199980-202



「魔女の宅急便」  
「火垂るの墓」の  
宮崎駿・高畑勲が  
贈る感動の最新作です。

『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『火垂るの墓』『魔女の宅急便』など、日本映画史上に残る数々の名作アニメーションを手がけてきた宮崎駿・高畑勲が再びコンビを組んだ話題の最新作です。今回は、プロデュースに宮崎駿、監督には高畑勲が当たり、再びあたたかさや熱い感動を贈ります。

だれにもある思い出と  
素敵な愛の訪れが  
あたたかく描かれます。

夕工子は27歳、独身。お勤めは嫌いじゃないけれどキャリア志向というわけでもない。人生のターニング・ポイントにきて「私、このままでいいのかな？」と考えています。

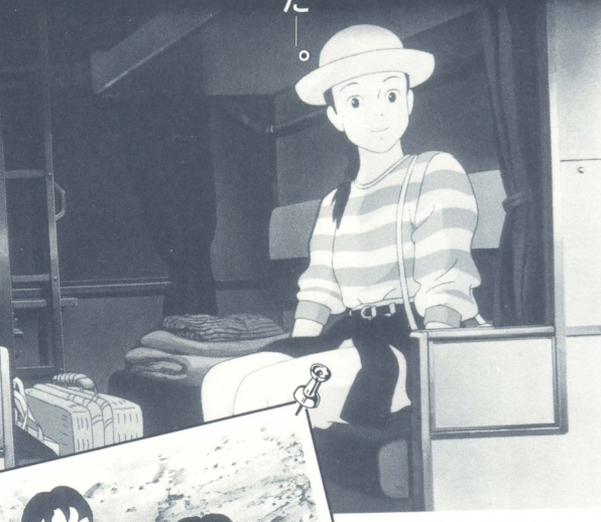
ある日、彼女は10日間のひとり旅に出かけます。夜行寝台の中でふとしたきっかけで、小学5年の頃の自分を思い出します。——(となりのクラスの広田くんとの甘酸っぱい初恋)(きらいなものをむりやり食べさせられた給食の時間)(スターになりそくなって泣いたあの日)——「どうして5年生なんだらう？」不思議に思う夕工子。5年というのは、わがままで自分勝手だったこどもが初めて他人との関係の中で“自分”を意識する年代。もしかしたら、そのことと関係があるのかもしれない。

旅の目的地だった山形で、田舎の自然とそこに生きる人々に触れ、夕工子は自分を見つめ直します。そして、彼女は笑顔の下で息づいていた“もうひとりの自分”に気づきます。やがて、彼女に人生の中で一番光輝く時が訪れます…。

懐かしいこどもの頃の思い出や、人々とのふれあいの中で、

おもひでぽろぽろ

夕工子は、5年生の頃の思い出を連れて自分を探る旅にでた。



やさしさや愛をみつめていく夕工子の姿は、だれの心にもある同じ思いと重なって、深い感動と共感と呼ぶことでしよう。

しかも、アニメーションというより、実写の映画を見ている感覚でスクリーンにのめりこんでしまいます。そして、ラストには思わずジーンとくる素敵な場面も用意されています。

笑って、楽しんで  
心はずみずみず。

また、映画には小学5年の夕工子の時の昭和41年頃の流行歌や流行ったものが色々登場します。たとえば、NHKのTVシリーズで大人気だった「ひよっこりひよたん島」を始め、ヒット曲「星のフラメンコ」他、ザ・タイガースや宝塚、さらに「E.T.」のパロディまで登場し随所で楽しませ、笑わせてくれます。そして、見終わったあとはきつと明日への希望が湧いてくるに違いありません。

見どころ、聞きどころも  
いっぱいです。

原作は週刊誌に連載された同名の漫画。原作の舞台は昭和41年の東京郊外で、小学5年生の岡島夕工子は、三人姉妹の末っ子。彼女の目を通して、学校で起きたエピソードの数々が語られます。映画では、おとなに成長した夕工子が登場し、原作にある(小学校5年の自分)を回想する形でストーリーは進みます。

夕工子役には今井美樹、夕工子が旅先で出会う青年には柳葉敏郎が、それぞれアニメ声優として初出演。録った声にあわせて絵を描くプレスコ方式を採用しているため、ふたりの持ち味を十分に活かした新鮮な映像が魅力です。また、主題歌は新生・都はるみが「愛は花、君はその種子」(「ローズ」より)を歌唱力たっぷりに歌っていることも注目を集めています。

7月20日(土)より全国東宝洋画系ロードショー!